

iPDN Lectures

Chapter 2 経腸栄養

1 経腸栄養の特徴と適応

経腸栄養の特徴と適用

この講義の構成

栄養管理の基本と栄養投与ルートを選択

経腸栄養法の特徴と利点

経腸栄養法の適応と有用性

経腸栄養の特徴と適用

この講義の構成

栄養管理の基本と栄養投与ルートを選択

経腸栄養法の特徴と利点

経腸栄養法の適応と有用性

栄養療法

● 経腸栄養

経口栄養

経管栄養 経鼻・胃瘻・腸瘻 など

● 静脈栄養

末梢静脈栄養

中心静脈栄養

栄養療法

- 栄養療法の大原則は、

“ When the gut works, use it ! ”

「腸が働いているなら、腸を使おう！」

経口摂取ができるなら、経口で！

経口摂取ができないときも、腸が機能しているなら経腸で！

- 経腸栄養の適応は腸が機能している場合、すべて適応となる。
(食事では得られない腸管の安静が必要な場合も)

経腸栄養とは？

- 経口摂取が十分できるときは、**経口摂取**
- 経口摂取はできるが不十分のときは、
経口による経腸栄養剤などの栄養補助
- 経口摂取が不可能のときは、
経鼻胃管、胃瘻、腸瘻など

栄養管理のルートを選択

消化管が安全に使用できるか？

はい

経腸栄養

いいえ

静脈栄養

管理期間が6週間未満か？

はい

経鼻胃管

いいえ

胃瘻・腸瘻

管理期間が2週間未満か？

はい

末梢静脈
栄養(PPN)

いいえ

中心静脈
栄養(TPN)

経腸栄養の特徴と適用

この講義の構成

栄養管理の基本と栄養投与ルートを選択

経腸栄養法の特徴と利点

経腸栄養法の適応と有用性

経腸栄養法の特徴と利点（静脈栄養と比較して）

- 1) 腸管粘膜の維持（腸管粘膜の萎縮の予防）
- 2) 免疫能の維持、bacterial translocationの回避
- 3) 代謝反応の亢進の抑制（侵襲からの早期回復）
- 4) 胆汁うっ滞の回避
- 5) 消化管の生理機能の維持（腸蠕動運動、消化管ホルモン分泌）
- 6) カテーテル敗血症、気胸などのTPN時の合併症がない
- 7) 長期管理が容易
- 8) 廉価

経腸栄養の特徴と適用

この講義の構成

栄養管理の基本と栄養投与ルートを選択

経腸栄養法の特徴と利点

経腸栄養法の適応と有用性

経腸栄養法の適応と有用性

1. 適応と禁忌

腸が機能している場合、すべて適応

- 経腸栄養法の十分な効果が期待できる場合
- 比較的治療効果が期待できる場合
- 経腸栄養の禁忌

経腸栄養法の適応と有用性

1. 適応と禁忌

● 経腸栄養法の十分な効果が期待できる場合

- ① 消化管の機能が正常である場合
- ② 消化管機能がやや落ちているが安静を要する場合

● 比較的治療効果が期待できる場合

- ① 経口摂取のみでは栄養障害に陥る危険性のある場合
- ② 癌化学療法や放射線療法による経口摂取不良の場合

経腸栄養法の適応と有用性

1. 適応と禁忌

● 経腸栄養の禁忌

腸が安全に使用できない場合

イレウスや難治性の下痢や循環動態が安定しない状態の場合、治療効果が期待できない。

経腸栄養法の適応と有用性

2. 臨床的な有用性

① 比較的重症な症例の急性期の管理

食道がんなどの比較的大きな侵襲の手術や重症症例に、
経腸栄養はその真価を発揮

② 在宅などの慢性的な栄養管理

重症患者の急性期と相対する在宅などでの慢性期の
栄養管理